



## 河川攻略の書

【ご注意ください！】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。

下記の点にご注意ください。

このレポートの著作権は齊藤真吾に属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部を

いかなる手段においても複製、転載、流用、転売等

することを禁じます。

このレポートの開封をもって下記に記載された  
事項に同意したものとみなします。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部を  
いかなる手段においても複製、転載、流用、転売等  
することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った場合、その他の不法行為に  
該当する行為を行った場合は、関係法規に基づき  
損害賠償請求を行う等、民事、刑事を問わず  
法的手段による解決を行う場合があります。

このレポートの情報は作成時点での著者の見解等です。  
著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、  
見解の変更等を行う権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、

万が一誤り、不正確な情報等が有りましても  
著者及びパートナー等の業務提携者は一切の  
責任を追わない事をご了承願います。

このレポートを利用することにより生じた  
いかなる結果につきましても、著者及び  
パートナー等の業務提携者は一切の責任を  
追わない事をご了承願います。

#### **【推奨環境】**

このレポートに記載されているURL はクリックできま  
す。

できない場合は最新のAdobeReader を下記のページより  
ダウンロードしてください。（無料）

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

## 目次

はじめに

上げ潮編

- ・ 上げ潮時の河川から
- ・ ベイトはどこだ
- ・ ですが、これではまだ不十分です
- ・ さて、ではコレにさらなる

複合要素を加えていきます

- ・私が攻める場所とは？

下げ潮編

- ・下げ潮時の河川は？

## はじめに

これからシーバスを始める

あなたへ贈る、

河川というフィールドを

攻略するためのバイブル。

## 【河川攻略の書】

を作ってみました。

あなたのホームフィールド、

河川を攻めるために必要な

基本的知識と狙うべき

ポイントについて、

詳しく解説しています。

あなたのシーバスフィッシングに

役立てて頂けると嬉しいです。

少し長いですが、最後まで

お付き合いくださいね。

では、ちょっと簡単に自己紹介。



ニックN      しん

出身 名古屋

生息地 三重県

誕生日 10月3日

所属 辰年

階級 1児のパパ

流派 ネコ派

仕事 運び屋

趣味 釣り全般

性格 真面目8：不真面目2

優しく温厚で争いを好まない

気は長く、負けず嫌い

妻 可愛くて取っ付き易い性格の

誰からも好かれる料理上手

好きな言葉 未来だけが唯一変えられる！

自業自得！

夢追い人であれ！

いずれ日本全国を

シーバスフィッシングで釣り歩くという

ちっぽけでくだらない野望を持った

シーバスアングラーです。

地球（ほし）と人との繋がりを求めて。

大自然の中に身を置き感じる。  
時には静かに、時には激しく生命と対話する。  
己の慣性を元に知的に歩む。  
その先に待つドラマへと！。

あなたもシーバスフィッシングを始めてみませんか？

という理念をソウルコピーとして

シーバスフィッシングをもっと世の中に

広めていきたい単なる釣りバカです。

よろしくお願ひします。

詳しいプロフィールはこちら

↓↓

<http://seabass-live.link/?p=350>

## 上げ潮編

### 【上げ潮時の河川から】

河川攻略の書、いわゆる

**リバーシーバス**ってヤツですね。

私はよく、

「シーバスって上げ潮の方がいいの？

それとも下げ潮の方が釣れるの？」

というような内容の

質問を頂きます。

そして、これに対する答えは

「どっちもいいよ。」です。

なぜなら、これは釣り人の好みや

フィールドとそのまわりの地形、

潮の種類、時間帯、  
季節などによって  
まったく変わってくるから。

今回は潮が上げてくるのが

目に見えて確認できる

汽水域エリアの少しだけ

上流のエリアのお話です。

このくらいのエリアでは

まだまだ海の影響が強く出ます。

潮が一番上まで上げて来れば

流れがゆるやかになるし、

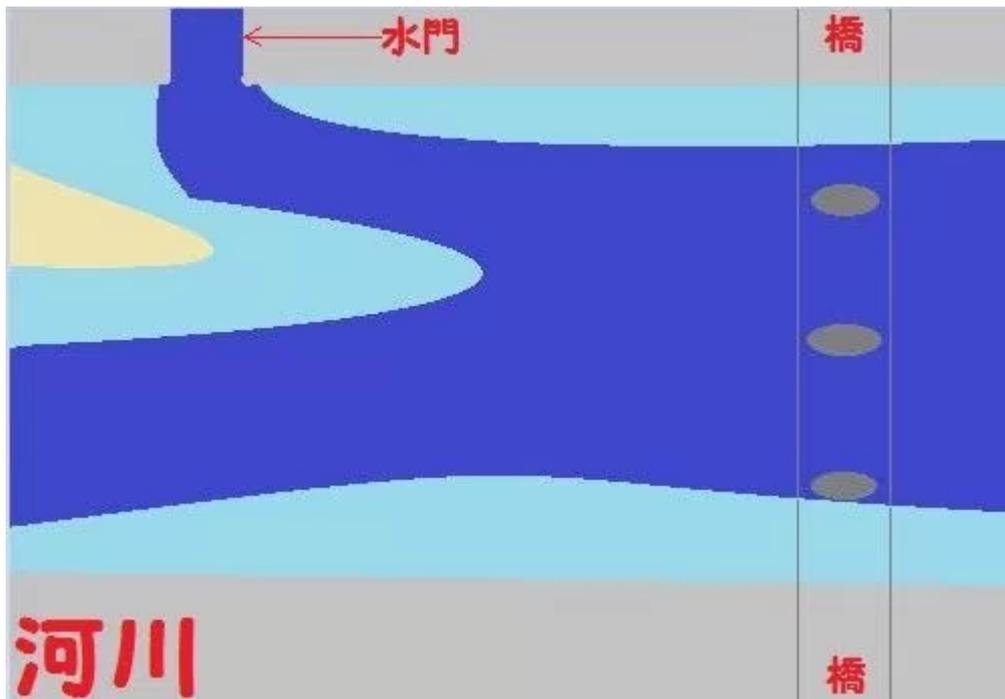
水深も深くなります。

**完全な汽水域**で潮が下げれば

流れが早くなるし水位も下がります。

そんなエリアのお話。

まずは、下の画像を見て下さい。



上げ潮時、特に際立った流れも無く  
ゆっくりと水位を上げながら  
ゆるやかに下流へ流れている状態。

ちなみに画像の右に向かって  
流れている事にします。

まずは**ベイトの存在**を

確認しましょう。

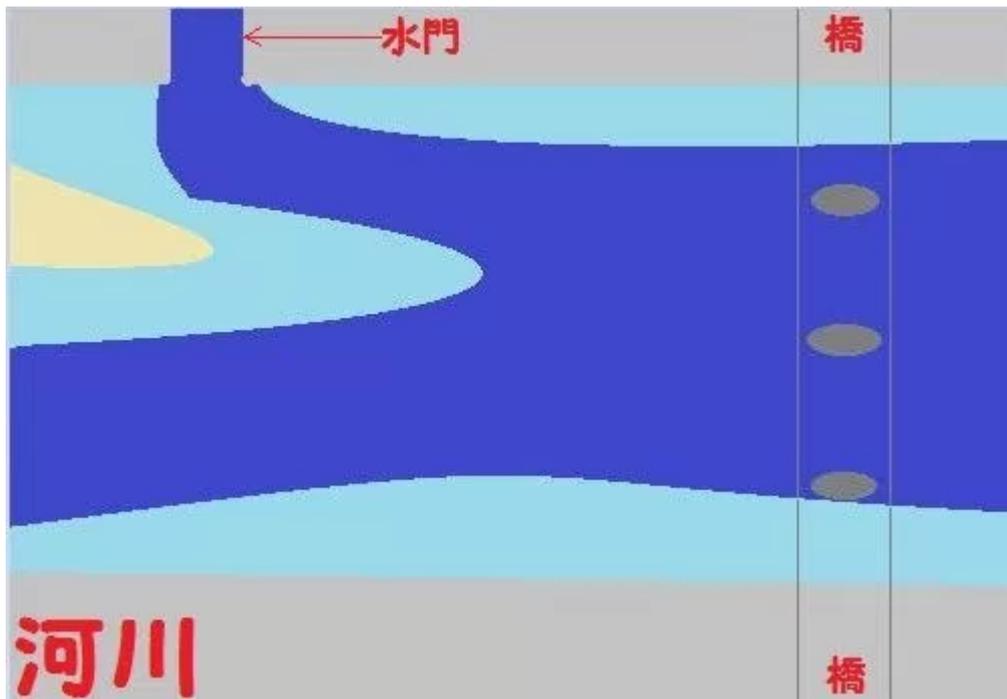
どこに居てどのように泳いで

どこへ向かっているのか？

又はそこで何をしているのか？

こういった事を確認します。

**【ベイトはどこだ】**



例えば、

岸際に寄って底のほうで

ヒラを打っているな。

とか、

橋の下の橋脚の下流側で

何匹か跳ねているな。

とか、

どうやら、水門の流れ出しの  
流れに集まってるみたいだな。

とか、

この辺の奴らはみんな  
ワンドに向かっているみたいだ。

とか、

沖のサンドバー周辺のカケアガリが  
キラキラしてヒラを打ってるな。

などなど。

じっくり観察してみると、  
けっこうベイトはいるものです。

これらのベイトを何回か通って  
毎回見かけるような  
フィールドには居付きの  
シーバスがいる可能性が高いです。

居付きのシーバスとは  
ベイトが多くて下げ潮とともに  
帰りそびれた食いしん坊シーバス  
の事です。

もう一つのバイブル、  
河口攻略の書に出てくる  
“海水くさび”に便乗して  
上がってきては、下げ潮とともに

海へと帰っていくシーバスを  
回遊型と呼ばれていますね。

これに乗って上がってきて  
「めし！」とか言ってるうちに  
戻りそびれたシーバスが居付き。

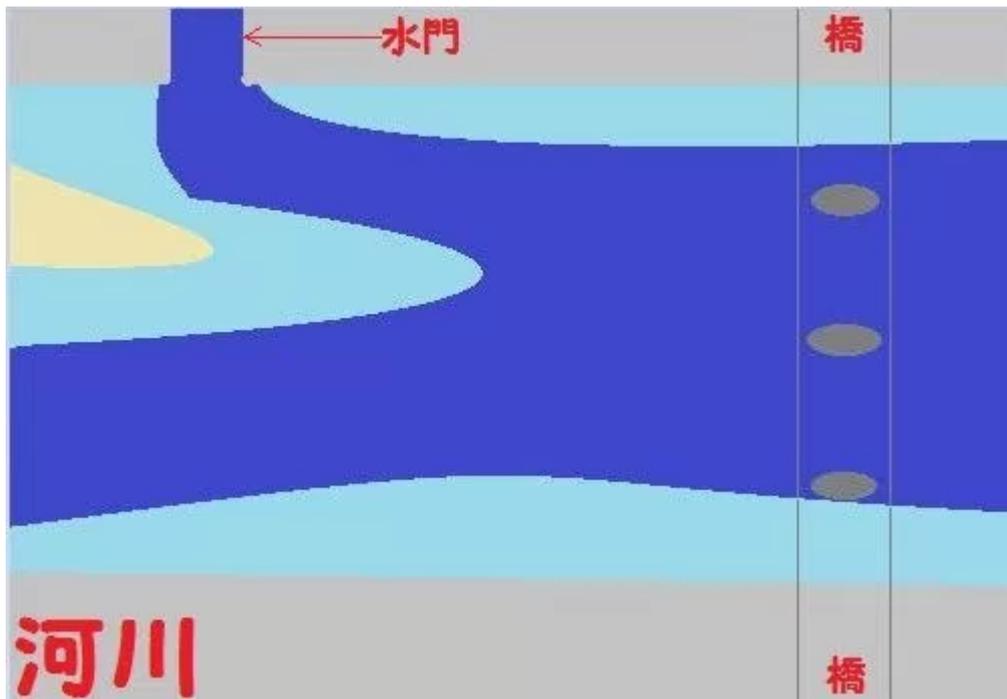
この居付きのシーバスを  
狙う事になりますが、ポイントを  
選ぶ時まず第一にベイトの存在と  
動きを確認してください。

なぜなら、コレが一番の  
要素になるから。

ぶっちゃけシーバスはすぐに  
口にできる餌があれば、  
よほど警戒していない限りは  
いつでもベイトを捕食します。

つまり、**オールタイム**  
**食い気があるので基本、**  
**エサのあるところに居ますし**  
**エサが無ければ移動します。**

今度はこの**最低条件**を満たした  
フィールドでというものを  
いくつか探しだします。



例えば

カケアガリの端のブレイクライン。

あそこにシーバスが身を隠せるな。

とか、

あの橋脚の深いところに定位して

上の水流変化によってくるベイトを

待ち伏せしているな。

とか、

水門付近の深い場所で

上を通りかかるベイトを

狙っているな。

とか、

サンドバー付近のカケアガリを

ゆっくりと移動しながら

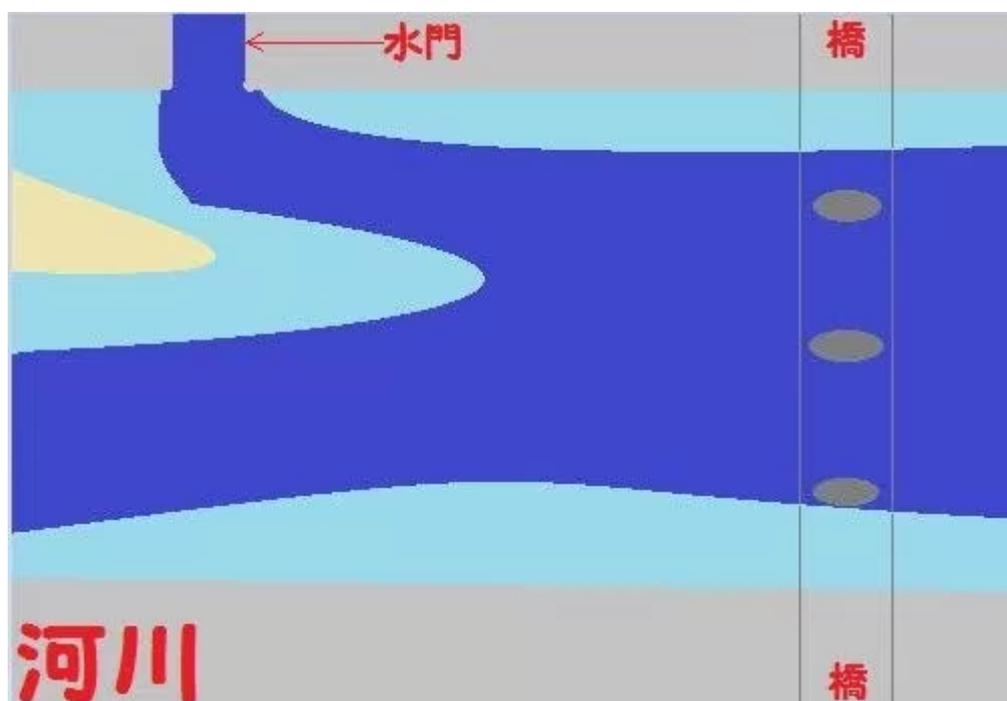
出会い頭にベイトを食べているな。

などなど。

**【ですが、これではまだ不十分です。】**

さらにここにプラスの複合要素を

見つけ出していきます。



例えば、

あの水門から水が出ていて

ハッキリと目に見える流れの

ヨレができているな。

とか、

橋の下の橋脚は日陰になっていて

明暗の要素も持っているな。

とか、

水門とサンドバーの間のワンドが

シャローになっていて、ベイトが

たくさん避難しているな。

などなどです。

こういう事を考えながら

狙うポイントを決めていきます。

そして、複合要素が多いポイントを

見つけられればベイトの動きを

確認してルアーで表現するだけです。

上げ潮では、下げの流れを  
要素として使えないので  
よりしっかりと複合要素を  
絡めていかないと釣れません。

さて、

これらを考えたところで

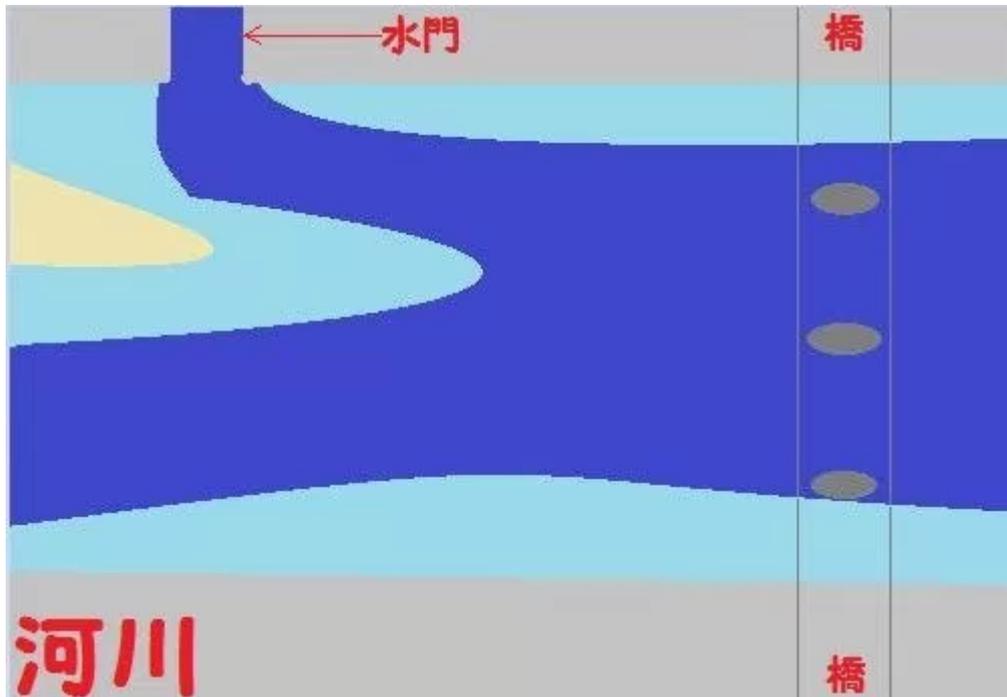
あなたなら、どこを狙いますか？

条件は、

- ・ 水門から水が出ている事

- ・ 上げ潮の効果があり、

ゆっくりと下流に流れている事



・・・。

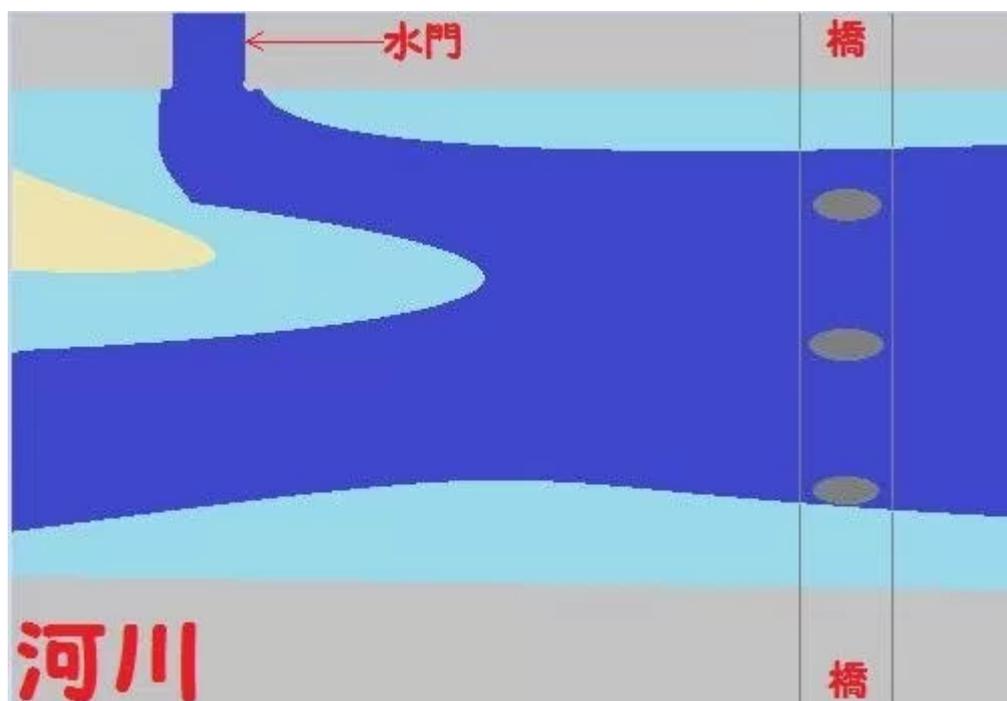
どうでしょう？

ポイントだけではなく

具体的にどう攻めるかを

立ち位置から考えてみてください。

• • • ◦



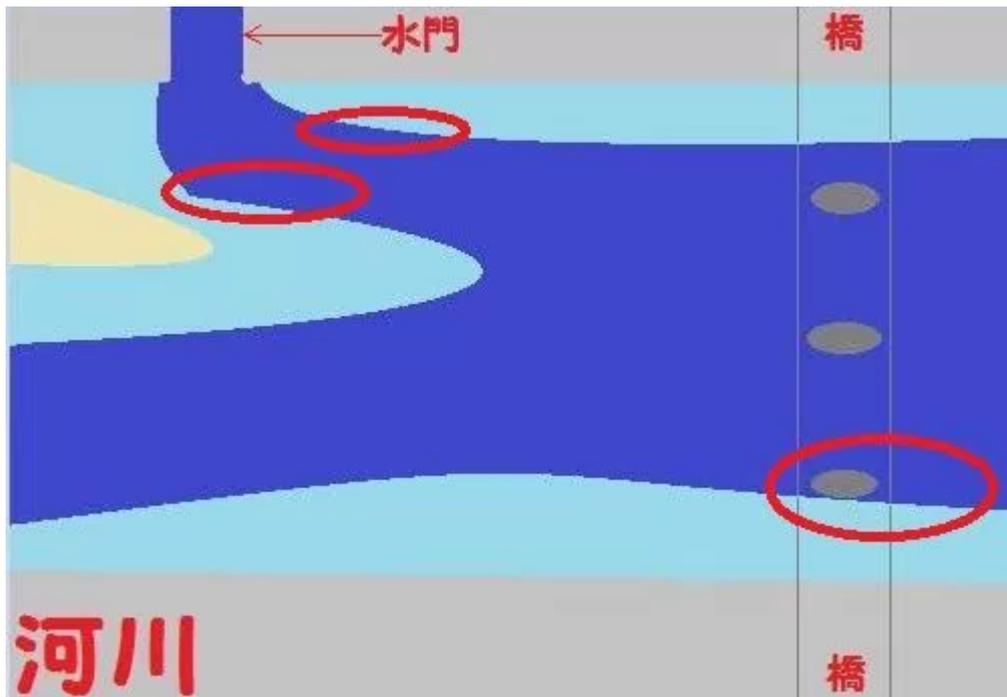
• • • ◦

• • • ◦

どこを狙うか決まりましたか？

では、いきましょう。

私なら、ココを狙います。



やはり水門まわりのブレイクライン。

水門からの流れを利用して

ドリフトで手前のブレイクラインと

奥のサンドバーのカケアガリの

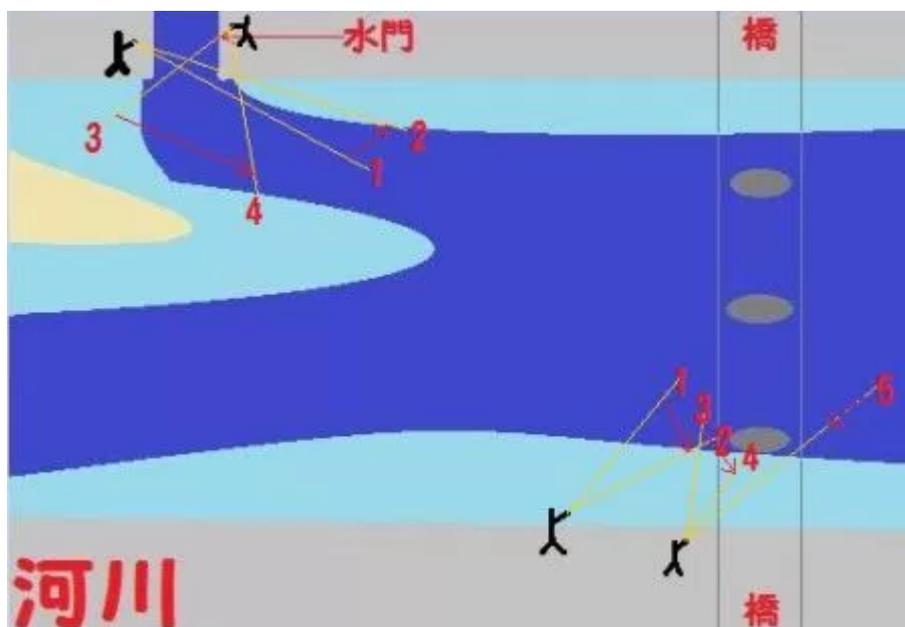
切れ目あたりを狙います。

水門の左側の角から少し左に  
立ち位置を取って、

手前のブレイクラインに水門の  
流れを利用してドリフトで  
ルアーを流し込みます。

このときキャストは水門の  
流れのど真ん中に出来る限り  
着水音を消してアプローチ。

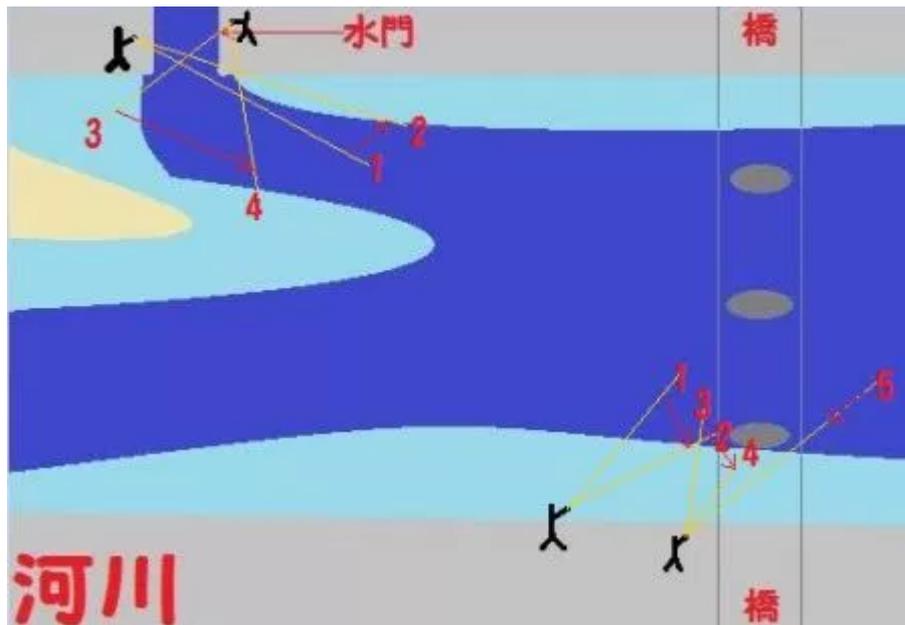
そのままブレイクラインへ。



次に、

水門の右側の少し奥に立ち位置を  
取って、水門から出た流れの  
左側にあるワンドの手前のほうに  
ルアーを打ちます。

そのままゆっくり引いてきて  
水門の流れに乗せて向こうの  
ブレイクラインヘルアーを  
流し込みます。



次は、**対岸の橋の下**。

まずは、ゆっくり流れているながらも  
橋脚の上流部をドリフト攻め。

続いて立ち位置を少し右に移動して  
今度は橋脚の横へ（笑）

## 【さて、ではコレにさらなる 複合要素を加えていきます。】

上の条件にさらに空間的要素を  
加えるようになります。

条件は

- ・ 水門から水が出ている事
- ・ 上げ潮の効果があり、

ゆっくりと下流に流れている事

- ・ 水は少し濁りが入って

ブレイクラインの先が全く見えない

- ・ 天候は明るい曇り
- ・ 緩やかに風が吹いていて

水面には僅かにさざなみが立っている

という条件になりました。

さてさて、

**あなたならどこを攻めますか？**

考えてみてください。

ここから先は

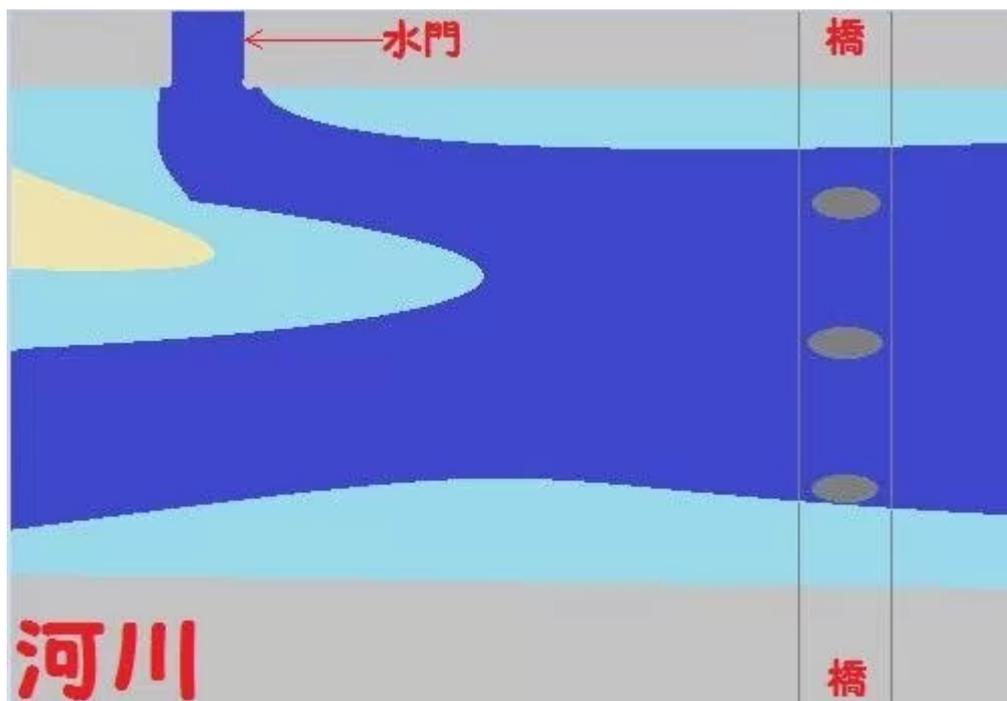
それをお話させていただきます。

画像を見て、考えてみてから  
先に進んでみてください。

## 【私が攻める場所とは？】

さて、

考えて頂けましたか？



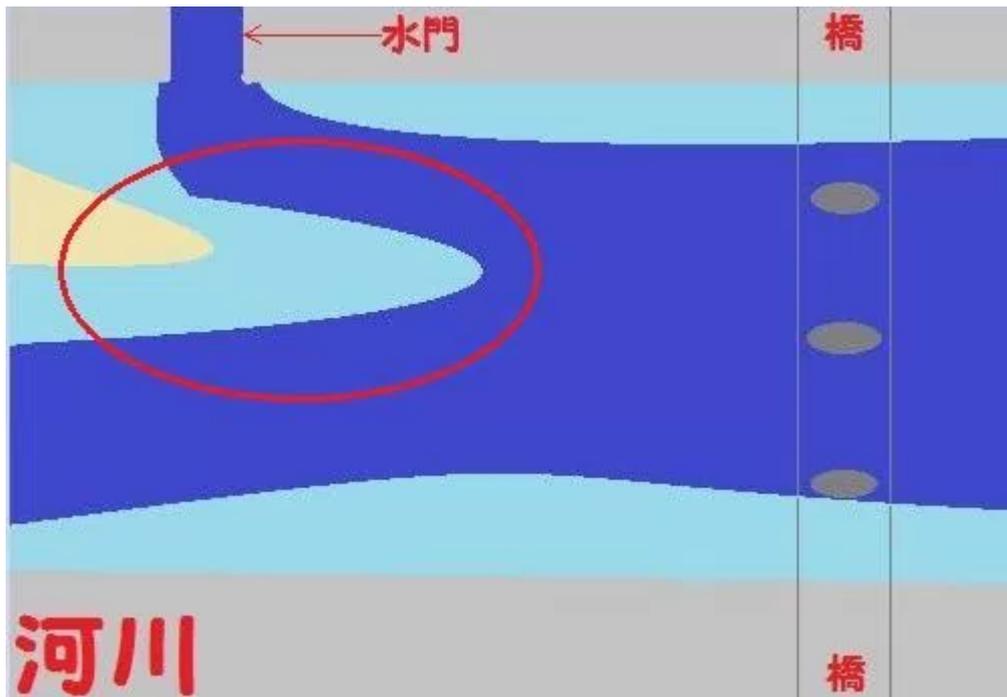
・・・、

「いいから、早く話せって？」

は～い。(笑)

では、さっそく。

私ならここを攻めます。



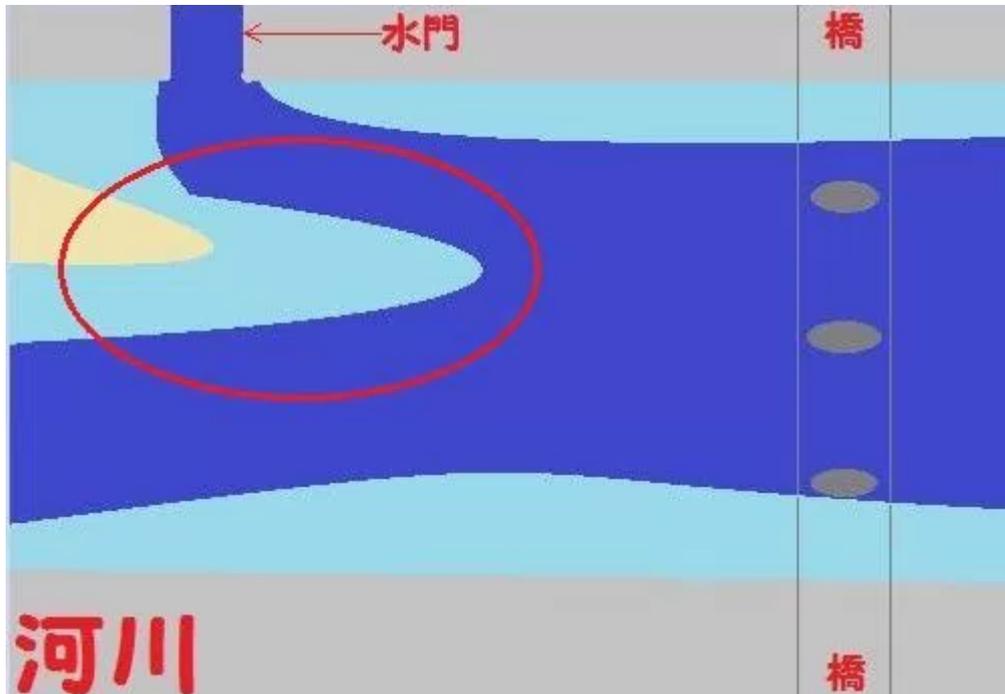
はい、**サンドバー**です。

なぜ、ココを狙うのかと言うと、  
このように狙う場所がたくさんある  
場所だと大体の方があたりまえの  
メジャーポイントを攻めて  
数本釣って帰っていく、

又は、「釣れないな、ここ

居ないや」と言って帰っていく

パターンになります。



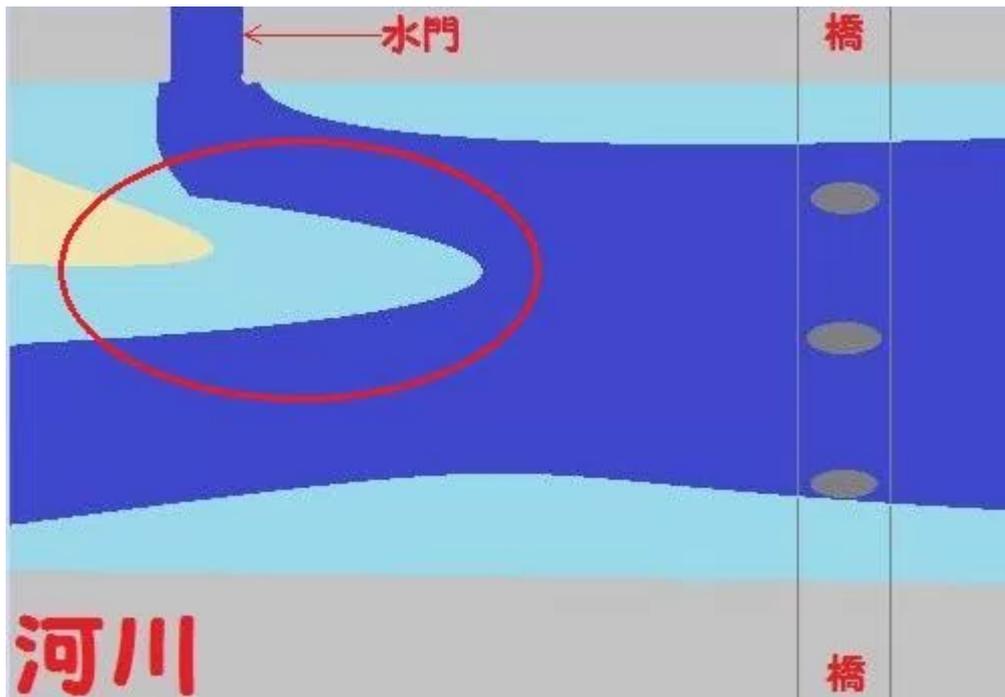
つまり、こういったメジャーな  
ポイントが多いフィールドでは  
こんな二級三級ポイントが  
竿抜けポイントになってしまう  
事が多いのです。

**でも**、このサンドバーのポイント、  
晴れていて水がクリアな状態では  
けっこう釣りにくいんです。

なぜならフィールド全体が  
浅いため、そこに居るシーバスなどが  
周りの気配を感じやすいから。

護岸に人が居て、キャストしてれば  
気配で分かりますから。

しかも、その状態だと  
**上空をルアーが通過しただけで**  
逃げていく感のいい奴も居ます。



ところがココに先ほどの

空間的要素、

- ・ 水は少し濁りが入って

ブレイクラインの先が全く見えない

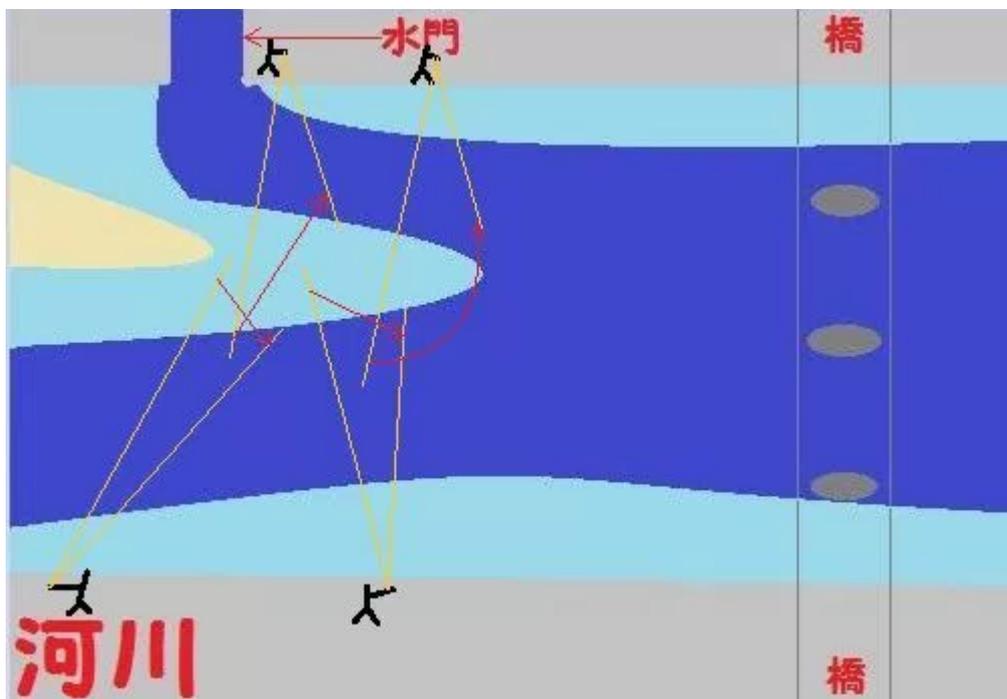
- ・ 天候は明るい曇り

- ・ 緩やかに風が吹いていて

水面には僅かにさざなみが立っている

という条件が加わると水の濁りと  
水面のさざなみによって、周りの  
気配を感じ取りにくくなります。

そして、**活性が上がります。**



ですが、これが暗い曇りだったり  
夜だったりするとシーバスたちは  
さらに警戒心が薄れて護岸際などの  
岸際に寄ったりします。

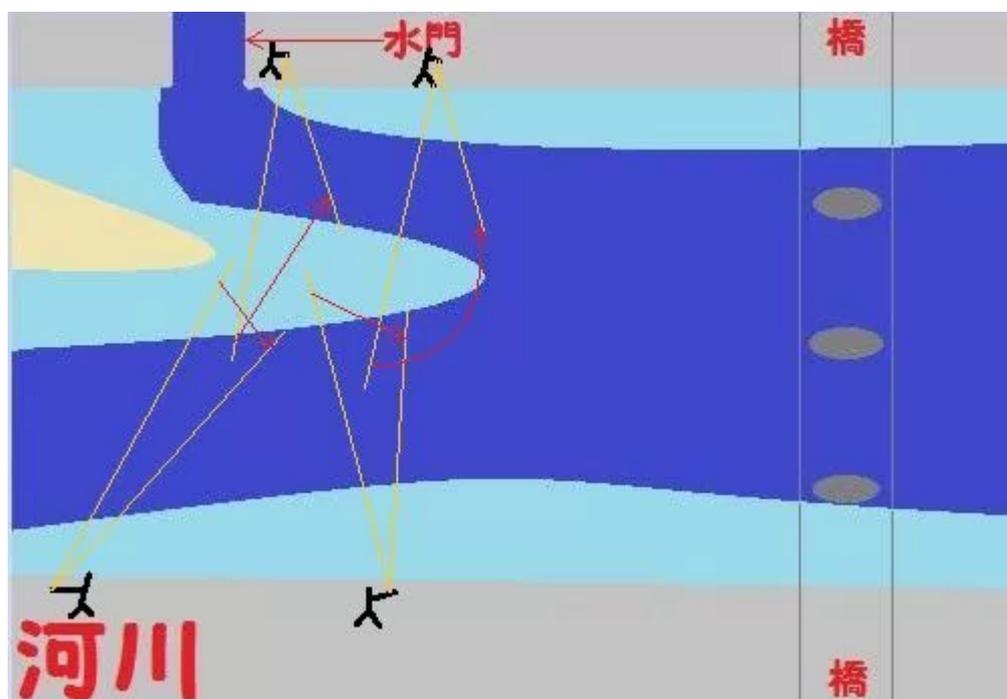
でも、明るい護岸や  
メジャースポットへリスクを取って  
出かけていくのは少し不安です。

ですから、まず人が踏み入れない  
**中洲のサンドバー**などに  
集まったりするんです。

人の気配が全く無く、  
ベイトたちの避難場所になって、  
しかも陸地からはサギなどの  
鳥がベイトを深いブレイクの  
ほうへ追いやってくれる。

そして、ほとんどルアーが  
飛んでこない。

こんな場所をシーバスが見逃す  
事は考えにくいです。



私なら、間違いなく

ココを一番最初に狙います。

ただし、こういった

**特殊な条件下の時だけ**ですが。

こういう感じでポイントを

絞り込んでいきます。

毎回こんなシュミレーションを

しながら釣る人と、

いわゆるメジャーな

ポイントだけを機械的に

ランガンしているだけの人では、

一年後には圧倒的な実力の  
差が生まれます。

まあ、こういう

シュミレーションをしながら

ランガンする人もみえますが。

こんな感じですよ。

河川のポイントの読み方。

そして、

上げ潮の時は特にシビアですが

下げ潮もやることは同じです。

## 下げ潮編

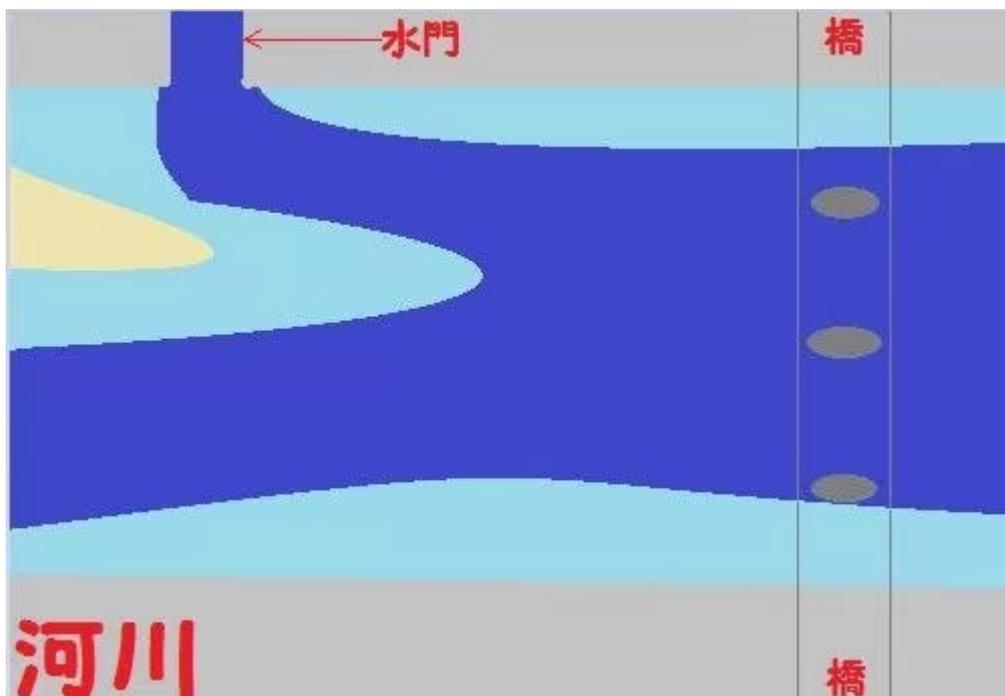
### 【下げ潮時の河川は？】

下げ潮時の河川は

これらの要素に加えて、

**最強の要素とも言える**

**下げ潮の流れ**がプラスされます。



ですから、最低条件は  
流れが強く、その流れの影響で  
変化ができています。

そして、ベイトが居るところ。

この2つが最低条件になります。

これらを基準に考えていきましょう。

まず、ゆるい流れである程度  
自由に動いていたベイトたちが  
強い流れに耐え切れず、流れの  
弱い場所へ移動を開始します。

この**ベイト達が動く時**は

シーバスの活性が一気に上がります。

ですから、流れが大きく変わる

タイミングに居合わせたら

チャンスです。

この時にバタバタと釣れ出す

事がよくありますね。

そして、**ベイトが行き着く先は**

**流れの弱い浅瀬、流れのヨレ、**

**強い流れの脇のシャローに出来る**

**反転流、ワンド、橋の橋脚の後ろ**

などですね。

この下げの流れが発生すると

- ・シーバスの活性があがる
- ・シーバスの居場所が特定しやすくなる

という恩恵を受ける事が出来ます。

**あなたなら、どこを狙いますか？**

基本は同じです。

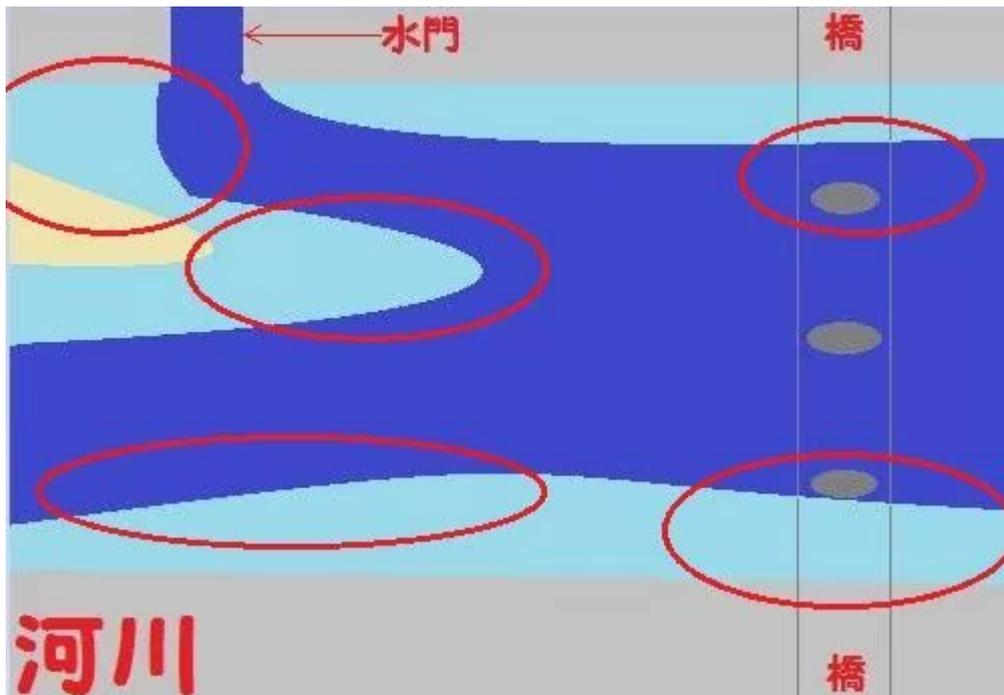
この最低条件に

いろんな複合要素を  
加えて考えてください。

多くの要素を合わせ持つ  
ポイントが最も釣れる確立が  
高いです。

ただ、中には強い要素と  
弱い要素があります。

私なら、  
これらのポイントを狙います。  
↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓



ん～、ほぼ全部ですね。（笑）

まず**ワンド**ですが、ココは  
遊泳力の弱いベイトたちが  
数多く避難してきます。

気配を消し去り、しゃがみこんで  
着水音を限りなく小さくして  
かなりナチュラルに泳ぐルアーを

使って静かに釣ります。

比重の軽いペンシルか

スーパーシャローランナーを

使いますね。

そして、時々**ブレイクライン**から

落としてやります。

その他のポイントは基本

ドリフトで攻め方を

組み立てていきます。

どこも遠目にキャストして

ドリフトでブレイクラインへ

送り込みます。

次は**橋脚**。

そうそう、ドリフトで

橋脚を攻める時に一番

注意しなければならない

事は何だと思えますか？

・・・、

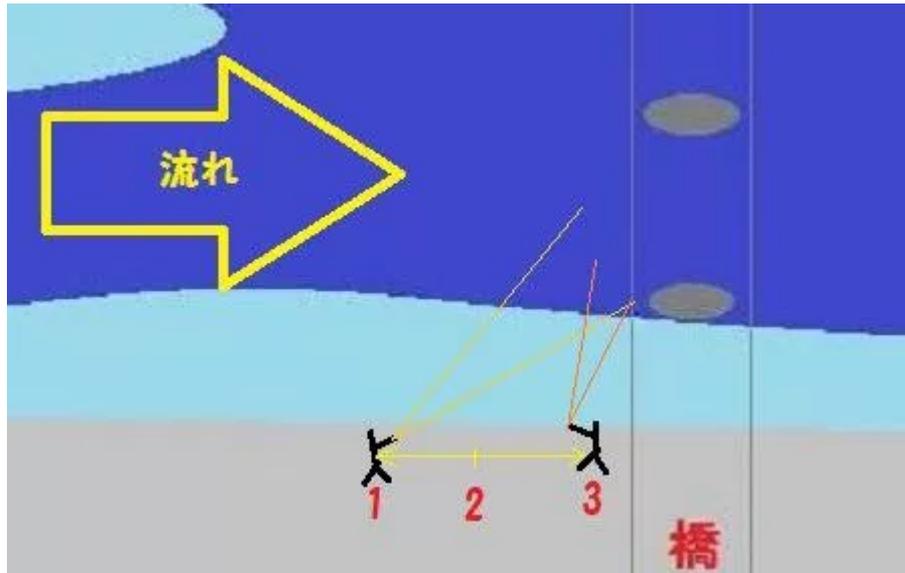
・・・、

それは、

あなたの立ち位置です。

この立ち位置はフィールドや  
流れの強さ、風の強さなどで  
変わってきます。

下の画像を見て下さい。



1番の立ち位置を取る場合は、

- ・ 流れが早い時
- ・ 上流からの風が強い時
- ・ 岸から橋脚が近い時

などです。

3番の立ち位置を取る場合は、

- ・流れがゆるい時
- ・風が吹いていない時
- ・反対向きに風が吹いている時
- ・岸から橋脚が遠い時

などです。

1、2、3、の間であなたが

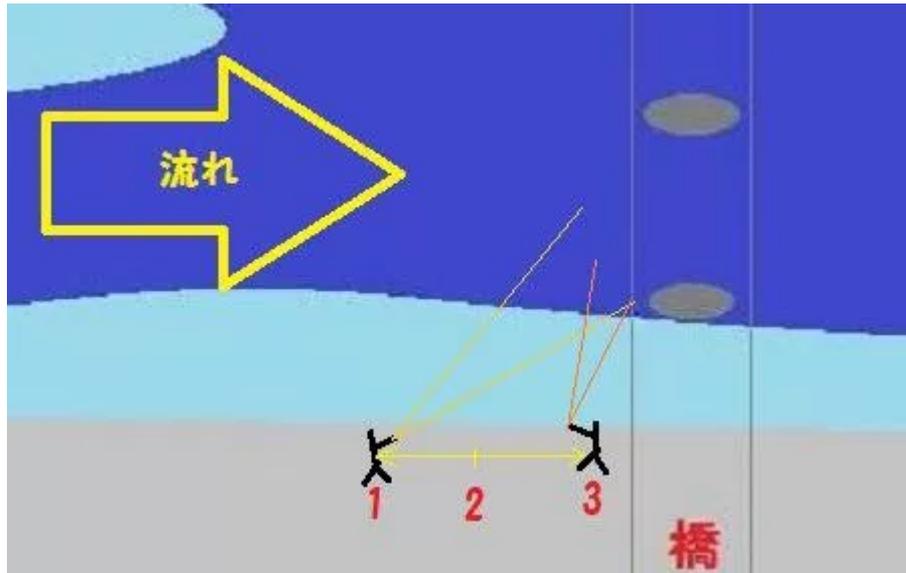
やりやすい位置に

微調整してください。

ハッキリ言ってこの立ち位置で

上手くポイントにルアーを

流し込めるかが決まってきます。



そしていずれも橋の下の  
明暗の境目の明るい方へ  
ルアーを直水させて、  
暗い方へ流してくださいね。

何度も言いますが、**ポイント  
直撃はダメ**ですよ。

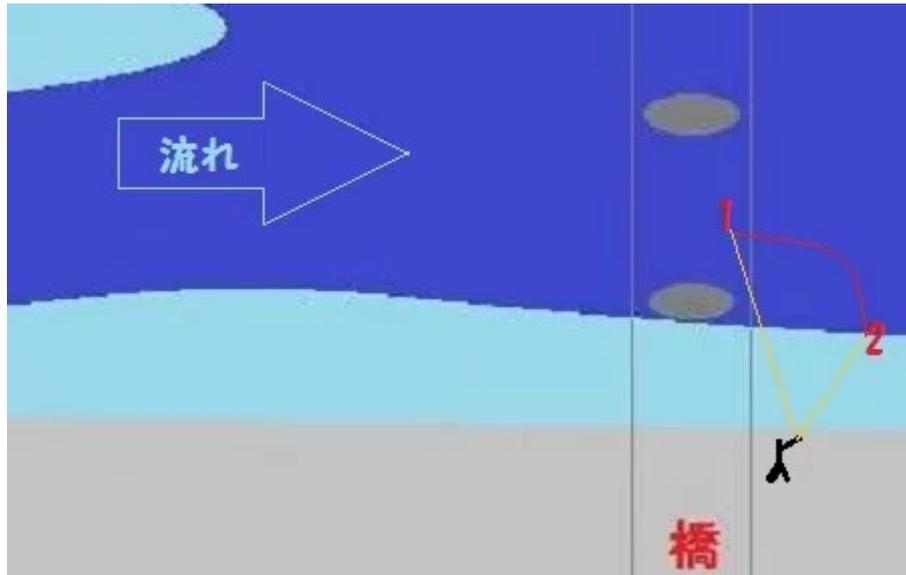
橋の橋脚では基本的に  
活性の高いシーバスから

上流側に陣取ります。

もちろん、下流側にも居ます。

ですが、上流側の活性の高い  
ヤツから釣っていきましょう。

上流側のポイントが先行者で  
空いていない場合は  
下流側へ入ってください。



1番へキャストします。

少しだけそのままルアーを

送り込んだら、

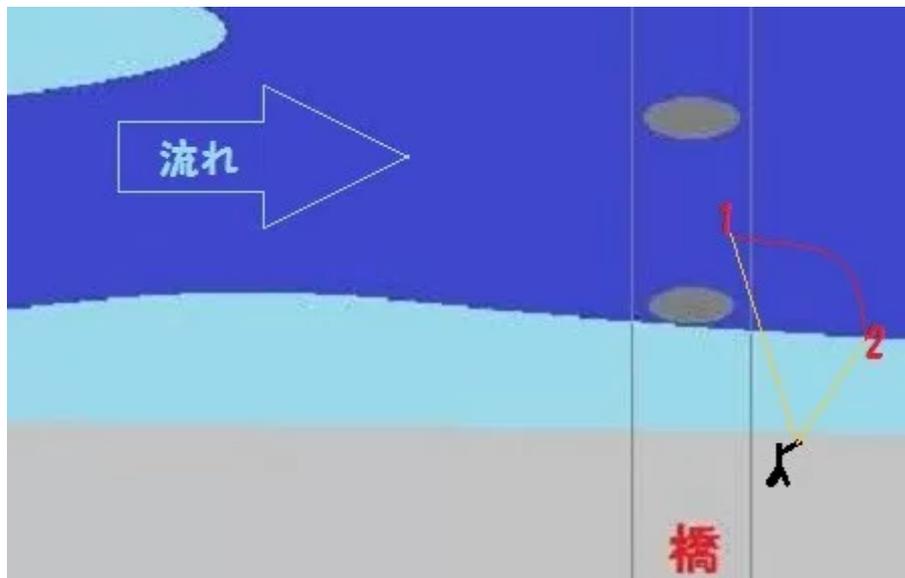
ラインスラッグを回収します。

ラインスラッグとは糸ふけの事。

次はルアーが泳ぐギリギリの

遅いスピードでリールを巻いて  
そのまま流されてきます。

感じ的に言うと、少しラインが  
たるんだくらいの状態をキープして  
ルアーを流していきます。



橋の下の暗部から離れたら、  
レンジをキープ出来るくらいの  
リトリーブスピードで今度は  
ブレイクラインまで流し込みます。

これが、橋脚下流側の攻め方です。

あなたがまず、やらなければならない事は、昼間の釣行を何度も重ねてあなたが操るルアーたちのドリフト時の感覚を掴む事です。

何度もキャストして、あなたのルアーの位置が今どこにあるのかをほぼ正確に把握出来るようになってください。

これが分かればあなたもドリフトマスターです。

エサ釣りもそうですが、  
場所やポイントが何より大事。

その次は餌です。

シーバスフィッシングは偽物の  
餌を扱うために、その“エサ”を  
操る事が出来なければ釣れませんし、  
そもそもポイントにすら運べません。

まずは、あなたの操るルアー達が  
夜でも大体どの辺にあるのか  
分かる程度にまで昼間に練習して  
感覚を掴んでおきましょう。

コレが出来れば相当  
釣れるようになりますよ。

それでは、

**グッドラック！**

### **【参考記事】**

しんがライブ・オブ・シーバスと言うブログを

立ち上げた理念、その野望とは？

<https://seabass-live.link/?p=350>

シーバスとは？釣りに行く前に知っておいたほうが

いい秘密。

<https://seabass-live.link/?p=443>

実釣編記事を書くにあたってのシーバスルアーの

種類別解説と使い分け。

<https://wp.me/p6NdM5-9y>

シーバスフィッシングで爆るための

ホームフィールドの決め方！

<https://seabass-live.link/?p=458>

最初にマスターすべきリーリング、リトリーブ、

つまり引き方の基本。シーバスを始めるあなたへ。

<https://wp.me/p6NdM5-8I>

【しんのメルマガ】

<https://wp.me/p6NdM5-ce>

【お問い合わせ】

<https://tinyurl.com/nra5bar>

【ブログ ライブ・オブ・シーバス!】

<https://seabass-live.link/>

